

「一つはやらない、みんなやる。」
の方が桃太郎の度量が見えてよい。

◎お伽噺の感化と未來の國民

これからの子供にはかう言ふ風なものを讀ませ
なくてはいいけない。歐米のお伽噺は鬼を退治と
御賞美にお姫様を下さるとか、皆進取の氣象を養
ひ、健剛な氣を養ふやうなもの許りである。歐米
諸國の人が今日あの様に盛んに手を外國に擴げて
ゐるのは小さい時から讀んだり、さいたりするお
伽噺が皆桃太郎のやうなお噺ばかりだから、自づ
とその感化を受けてるのである。日本もこれから
は、因循な姑息な今迄の童話を破つて、小さな時
代からさう言ふ進取の氣、剛健な心を鼓吹しなく
てはいけぬと思ふ。かゝるお伽噺を作るのも、日
本を富國、強國にする一つの手段である。



唱歌のうたはせ方 (承前)

後藤ちとせ

右の諸注意のもとで精選された唱歌は如何なる方
法で歌はせるが宜しいでせう素より子供の事です
から唱歌の時間と申しても静かな時もあるれば騒が
しい時もあり、突然泣き出す子供も出れば何か外
來の刺戟のために忽ち注意の亂れる時もあります
から歌はせ方も臨機應變にやつて參るが必要です
而し其間おのづから採るべき方針方法がある外形
はどう變つても骨髄は一つと思はれますので、其
骨髄とも標準ともいふべきものを左に御話しいた
しませう

一、新材料の場合

(1) 準備

新しく何か歌はせる事になりましたなら保育
室に出る前に少くとも左の準備が入ります
(イ) 樂器練習を十分になし且保育者自ら該唱歌
に習熟すべき事

(ロ) 歌詞の了解を十分ならしめんがために實物標本又は繪畫の類を用意する事

(ハ) 幼児の收得するに便ならしめんが爲該唱歌を數段に分つ事

一定の時間内に幼児等が覺え得る分量には限りの有るもので御座いますから一時に澤山教へ込んで却つて好結果を得る事が出来ませぬ寧ろ少しづつを確實に記憶させて行つた方が幼児も苦しまずに面白がつて十分おぼえ込み却て進みが早う御座います、

で新材料は先づ之を左の諸注意の下で數段に分ち時を追つて幼児の了解し得る丈づつを教へて行くが宜しう御座います

(一) 唱歌の難易により分ち方に斟酌すべきこと

(二) 幼児の年齢により分ち方に長短あるべきこと

(三) 歌詞の續きと工合を考ふべき事

(四) 該唱歌に對する幼児等の既知の度合により授くべき分量に差違あるべきことへ上

の組の幼児等のうたふを聞き略を知り合つて居る唱歌は少しも耳にせし事なきものよりも澤山教へてかまひませぬ

(二) 幼児が未だ聞き知らざる全くの新材料を授ける場合には兩三日前より何かの折に(例へば食前幼児の氣を鎮める爲にとか又は保育室への出入りの際にとか)其歌曲を弾き用ひて聞きならし置かしむる事

(イ) 歌はせ方

發聲練習

初以上の準備が済み整頓した保育室に保母幼児等より成れる唱歌の團居が出来ましたなら先づ第一に發聲の練習をするのが順序で御座います、入園したての極く小さい子供には先づオルガンの音と全じ高さの聲を出させる稽古のためには調のG位の聲をPの音でオルガン及び保母と共にうたひ出させ進んでは三間音をア、オ等出しよき音で發聲せしめ更に最上組に至つては音階の練習をもさせ得る様になります。發聲の練習

(ロ)

は音量を増し美聲を養ふ基礎ことに深呼吸の代用にもなり外遊に於て思ひ思ひに遊びに耽つて居つた幼児等の心をひとつにまとめ「さあ是からは唱歌の時間だと思はせる方便にもなるので御座いますから唱歌の時間の始めには暫時必ず此練習を怠らぬがよろしう御座います但し此際幼児をして十分に充實した聲を出させるには楽器の音も保母の聲も量たつぷりな美しくて而も力のるので導いてやらねばなりません尙ほ新材料中の稍困難な音程は發聲練習の際特に出しておくが宜しい様で御座います

新材料に移り方
發聲の練習の濟む頃には幼児等の注意も唱歌といふ事に集注せられる様になり發聲器も唱歌するに程よきほどに慣されたわけですから茲で直く新材料にうつるべきで教授法の言葉を借りて申すなら豫備とか目的指示とか云ふ事をする順になるのです即ち其歌詞の内容につき既知の觀念を呼び起し該唱

(ハ) 範唱
豫備並に目的指示に相當した事が済みまし
たら次ぎには新材料の提出即ち範唱をして聞すべきです範唱は始めて新唱歌に移る際には先づ歌全體を歌つて聞かせ次ぎに當日教ふべき部分を更に歌つてやるべく前時問の續きの際には當日の部分又範唱すれば澤山です是れ第一の場合には大體どんな歌だかを知らせて「ア、早う皆ならひたい」と云ふ心を起させる必要があるからです

(ニ) 歌詞の口授
幼兒は文字が讀めませんから歌詞をおぼえ

さすのは口授に限られて居ります。當日教ふべき部分の範唱が済みましたら、次ぎには歌曲を離れて歌詞を口授するので、御座います。すが、幼児は發音が誠に不完全で、殊にサ行とタ行を混同し、清音と拗音を間違ひ用ふる事が多く中にはラ行のリ、エ等を正確に發音し得ぬのがあります。此際幾回となく同一歌詞を反覆口唱せしめ、特に困難なる音は其音だけを長く延ばして發音せしめ、(例へば「ユー」或は「リ」といふ様に)容易に出来ない子供には獨りて發音させて見るなど種々の方法で正確な音を出さしめ、正しく歌詞を收得させねばなりません。一度間違ひが染み込んで後は容易に訂正が出来ぬものです。

(ホ) 歌曲に合せて數回練習
但し此際には先づ樂器を用ひず、保姆の歌ふにつれて小聲で二三回うたはせ、次ぎに樂器に合して大きい聲で歌はすのが順で御座います。

(ヘ) 歌詞の意義を話させる事

歌ひ方がざつとわがりましたら、次ぎには歌詞の意義を話させるが宜しう御座います。唱歌によつて歌詞の中々六ヶ敷のありませすが、そんなのは幼児の了解し得らるゝ、丈話してもやり話させます。よく決して無理に全體を解釋させる必要はありませぬ。君が代の如き儀式唱歌の如き皆此點に注意して無益に幼児の可弱き頭腦を苦しめぬ様心すべきで御座います。

(ト) 練習

意味が大體わかりましたら、讀み方教授に於ける達讀の時の如く、十分歌ひ方の練習をなし巧みに歌ひ流す様にし、あげなければなりません。但し、幼児は倦易いもの、變化を好くもので御座います。から練習の方法も亦此様に應じ、或は腰かけて、或は立ち、或は一齊に、或は單獨に、或は男兒にのみ、或は女兒にのみ、或は前列に、或は後列に種々變化ある方法により、無用の言葉を用ひず、敏活に歌ひ進みて、少しの倦怠をも感ぜしめず、愉快

に十分の練習を終るは最も望まじき事で御座います但し前時間よりの續きの場合には始めより續けてうたはせ置く様にいたしま

す
(子) 已に習熟したる他の唱歌を元氣よくうたはせて退出

以上の事々は十五分乃至二十五分間位のうちに致し終るので御座いますから保母はしとやうに落ちつききつた中に敏活な所があつて倦き易き幼児をして倦きさせぬ技量が大事で御座います且つ前にも申した通り右の歌はせ方は只標準を示した丈で御座いますから臨機應變の順序をとり方法を考案する事は至極大切なこと決して杓子定規にいたしてはいけません

(附) 人

新授の際に注意すべきと

一、分量を不正確に教へるよりは少量を確實に教へよ

一、第一の歌を十分了解せしめざるに第二の歌

を教ふべからず

一、保育豫案に執着せず幼児收得の状態を見て材料を増減すべし

一、全体を一通りおぼえしめなば幼児相應に曲想に注意せしめよ
一、新材料を教ふる場合には復習の際に於けるよりも幼児の心を疲らしむるが故に該時間を短縮せよ

二、復習のさせ方

新授の際には歌詞を暗んじ歌曲をおぼえるのに止まり歌全体を巧みに歌はせて眞の興味を起さしむるは實に復習の如何に依るので復習のさせ方を考ふるのも亦必要な事で御座います左に掲げたのは思ひつきたる二三の方法に過ぎません故此他種々工夫を要する事と存します

一、或は衆兒一同にて、或は之を二分して、或は各組順次に又は男女兒別々にうたはす等の事により合唱の練習をなさしむること
一、該唱歌を數段に分ち全体の幼兒をも二分若しくは三分し保母のなす簡單なる合圖によ

り始めの一段より各組漸次に歌ひとるを讀書に於ける「取り読み」の如くなす法、例へば「箱庭」の復習の際に全体の幼兒を左右二組に分ち保母の交互に左右兩側を見るを合圖に左の如く歌ひとらす類で御座います

右側の兒

來て見よ君も我箱庭を

左側の兒

金魚のひれに波たつ海を

右側の兒

帆かけて浮けしつけ木の船を

左側の兒

向への岸に吹けく風よ

此方法は幼兒等が絶えず保母の合圖に注意せなければならぬのと己等の歌の順の廻ぐり來るのを待つ樂しみがあつたために面白うして復習し得らるゝ事が多くあります

歌詞の了解を助け且つは復習に變化あらしむるため簡單なる動作をつけてうたはせる法例へば「蝶」の唱歌の際兩手をもて蝶の形

をつくらしめ歌につれて之を蝶の飛ぶに擬せしむるが如き

一、歌詞の一部を變更してうたはせる法（前述の雪やこんくの例参照）

一、獨唱の練習
但し是は凡ての幼兒をして憶せず保母の前

に來てうたふ習慣をつける必要がありませうから此際猥りに訂正を加ふる等の事により

幼兒をして出でて唱ふをいとほしむるの原因を造らぬ様に注意せねばなりません

三、

唱歌につきての一般注意

終りに新授復習兩者に通じて必要なる注意數ヶ條を述べて談話の御話に移る事に致しませう

一、訂正法につきて

(イ) 訂正の言葉は禁止譴責等のいとふべき分子を含まざる快きものたるべし（同じに訂正

を加へてもいけません、下手です等云はるゝのところが歌ふ方が奇麗でせう、斯うする

方が愛らしく見えますなど云はるゝのは子

(ロ) 供にとつては大した違ひで御座いませう) 誤りは染み込まぬうちに早く訂正を加ふべ

事

(ハ) 正しさと誤れると美なると否らざると常に兩者を聞かして其相違を知らしむべき事

(ニ) 唱歌は練習によりて巧みになるものなれば幼兒等の發音不正なる點、歌一方の拙き部分

分は保母の模範に倣はしめ敏捷に幾回とな

く繰り返さしめ正しさに至り美なるに及び

て止むべきこと (ホ) 賞賛の辭の亂用は訂正の語の力を減せしむ

事

一、樂器の位置は保母が之を使用しつゝ十分幼

兒を管理し得らるゝ様据え置くべし

一、各幼兒個人々々に注意し寒胃に罹れるもの

咽喉を損じたる者等には強ひて歌はしむる

事なかるべく特に惡聲なるもの調子拍子の

觀念の缺乏せるもの等は成る可く保母の近

くに着席せしめ之が發達をはかるべきこと

(甚しく唱歌の拙なるは聽器の不完全なる

に基因する事尠なからざるを以て斯る兒は

耳の検査をなすことあるべし)

一、不必要なる言語問答を省き美しき保母の模

範により歌ふ事の練習を多くすべきこと

一、發音の正否は口形に關係多きを以て唱歌の

折には幼兒をして常に保母の口形に注意せ

しむべきこと

一、幼兒の姿勢に注意せよ

一、大聲にて荒々しく歌はんよりは少聲にても

美しくうたふ事にとめしめ漸次音量を増

さしむるを可とす

一、唱歌の意味の了解を助けんためにつくる動

作は至極手輕なものたるべく複雑にして遊

戯と混同するが如きはとるべからず

